

◎画僧、雪舟。

雪舟は、応永27年(1420)備前赤松(現岡山県総社市赤浜)に生まれた。幼くして井山宝福寺へ入り、道で筆墨を習ったという逸話はあまりにも有名である。その後、京都の相国寺へ、当時、相国寺には、日本の水墨画を代表する画文があり、その画師を直接受けて、
天冠の才氣に恵まれた雪舟は、やがて京都では名の聞こえた画家となった。応仁元年(1467)中国(当時建明)の地を巡んだ。天台山曼徳禪寺では、優れた画僧により「四明天皇山第一座」という高僧の称号を受け、雪舟は後世このことを誇りとしていた。帰国後は、山口の雪谷庵を拠点に石見(島根県)、豊後(大分県)と活躍の場を広げ、多数の作品を残した。



▲雪舟「雪舟の墨画」(複製)

◎藤江氏のこと。

ちょうど明から帰国したところ、京都では応仁の乱で戦の場となっていた。そこで、雪舟はゆかりの人間をたより、この川崎町の藤江氏の家に滞在し、ここで絵を描き、初めて筆を通ったといわれている。藤江氏は、平氏の強人の末裔であり、壇の浦の戦いの後、一族郎党と共に、この地に移り住み、豊前平氏の庇護のもと、力を持っていた。近くには、七重結界、守備不入の権を持つ英彦山の山伏もいて、頼りになると考えた雪舟はこの地に杖をおいた。



▲川崎の雪舟庵



▲雪舟が滞在した川崎の雪舟庵

◎蓮華思想を構した軸圖式の庭。

当時の禅僧は、水墨画を描き、庭園を行なうことは、自分の宇宙観を示すことであり、自己表現の場であった。当時の庭は、江戸時代にしばしば造られた図説式庭園とは異なり、軸圖式庭園といい、藩150年といわれる家のお庭敷にすわって眺める庭園である。雪舟が造った庭は、明で学んだ神仙蓮華思想によるもので鶴と亀がまつられて極めて品格がある。山を借景に岩湧水が流れている。石を配した庭には梅、桜、つつじ、かえで、



▲雪舟が造った雪舟庵